

提言第 3 号 注射剤によるアナフィラキシーに係る死亡事例の分析

事例番号：事例2

< 事例概要 >

・肺がんで化学療法中の 50 歳代男性。β ブロッカー内服。造影CT 検査室で発症。死亡時画像診断（Ai）有、解剖無。

・原因薬剤は、造影剤のイオパミロン。

・過去にイオパミロンを 2 回使用したが、アレルギー症状の出現無。

・イオパミロン注入から 5 分後、撮影終了と同時にくしゃみ、嘔気・嘔吐、体熱感が出現。6 分後に呼名反応消失し橈骨動脈触知不可。12 分後にアドレナリン0.3mg を筋肉内注射するが、徐脈・血圧低下、13 分後にアドレナリン1 mg を静脈内注射し、救急処置を実施するが 4 日後に死亡。